地域映像アーカイブの構築と活用に関する課題：
北海道・夕張市の事例から

水島久光　東海大学文学部

2017・7・22　デジタル・アーカイブ学会

夕張と、その歴史（時空間）

2006年6月20日、北海道夕張市の財政破綻の第一報
- 632億円の巨大な負債（実質的に解消すべき赤字額353億円、返済期間18年）
- 翌2007年3月財政再建団体へ（現：財政再生団体）

「二回のリセットボタン」
　反復性：リニアな発展モデルに
　回収されない時間の問題
「ナショナルとローカル」
　人為時事性（デリダ）
　ナショナルを構築する情報
　供給源としての地域

地図は昭和6年の夕張

これまで夕張で、何をしてきたのか

- 2008年　石炭博物館に保存されていたVHSテープのデジタル保存作業を始める（第一期）
- 2009年3月　ゆうばり国際ファンタスティック映画祭で上映会「ゆうばりアーカイブ」開催（以降2017年まで毎年映画祭の特別企画として実施）
- 2010年9月～2月「炭都夕張の記憶×映像アーカイブ実践」
- 2011年9月、10月「連続公開研究会　新鉱事故30年と映像に残る夕張の情景」
- 2013年5月～　「大夕張プロジェクト」
- 2014年～Google earthを用いた協働環境構築
- 2015年～市民会館映像資料室所蔵VHS保存作業（第二期）
- 2015年～「放送番組」活用に関する積極的働きかけ

←2010年の実践より

2009年、10年「ゆうばりアーカイブ」⇒

青木コレクションとゆうばりアーカイブ

- 青木隆夫
  夕張地域史研究資料調査室室長・元夕張石炭博物館館長、元法政大学特任教授
- 1980年代～破綻までのVHSテープ約500本⇒413タイトル

  2/3（256）がテレビ番組の録画、残りがフィルムからのダビング、最も古いもの―1916年三井八郎右衛門視察記録映像
- 「炭鉱」に関する“当事者”の観察の記録

「躍進夕張」（北炭制作；1938）

吉井氏寄贈映像（1932-37）

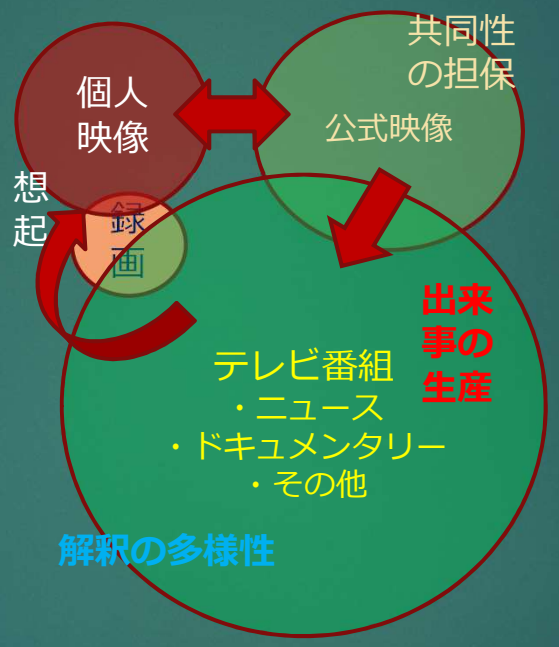
三井八郎右衛門視察（1916）

夕張防空演習（1932）

2009年　ゆうばり開基120年：「三井八郎右衛門視察（1916）」「夕張町防空演習（1932）」ほか
2010年　昭和30年代の夕張：「市民が見た夕張風景」（1961年）「第一回黒ダイヤ祭り」（1964）ほか
2011年　映像アーカイブ実践報告：「夕張は、いま…～消え続けるまち、生き続けるもの～」（2011）ほか
2012年　夕張市が撮った夕張：「炭都夕張」（1953）、「石炭の街ゆうばり」（1965）「飛翔夕張」（1983）
2013年　蘇る9.5mmと1930年代のゆうばり；「天龍橋工事」（1933）「睦会婦人清水沢清遊」（1936）ほか
2014年　懐かしの大夕張　「遥かなる故郷の思い出」（1997）ほか
2015年　みんなでつくるアーカイブ　ゲスト　今野勉
2016年　内なる炭鉱～炭鉱から観光へ
2017年　鉄道と町の姿の移り変わり

「アーカイブ体験」と「アーカイブ連携」～その理論と実践

- まなざしの攻防
  - 「誰が」「何のために」—被写体となった出来事・風景と制作主体との関係を読み取る
    - 「内」と「外」
    - 「国策」と「国民生活」
    - 「発展」と「豊かさ」
    - 「効率」と「安全」
    - 「都市」と「コミュニティ」



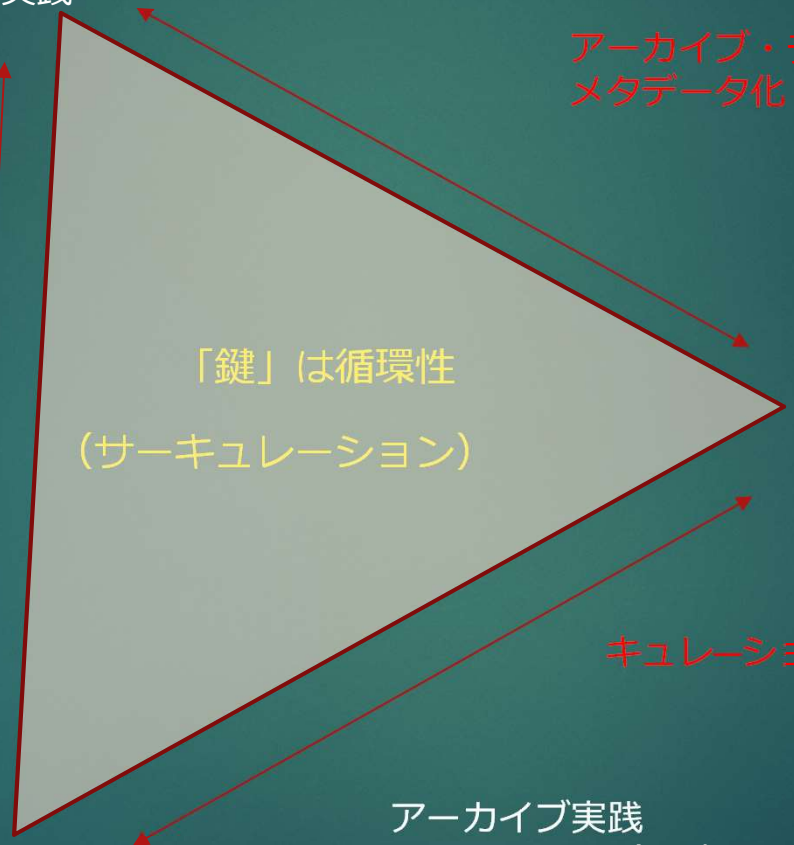
- 大きなアーカイブの中に、小さなアーカイブを見出す　⇒アーカイブ「公開」への道筋
- 小さなアーカイブを結ぶ　⇒メタ・アーカイブへ
- アーカイブと記憶、アクションを結ぶ　⇒アーカイブの活用環境の問題（MLAK、MALUI連携）
- アーカイブ自身が、更新されていく⇒過去のアーカイブと未来のアーカイブの接続

「アーカイブ体験」と「アーカイブ連携」
～その理論と実践

アーカイブそのものの構築
サブシステム＝研究・実践
環境の構築

アーカイブ・デザイン
メタデータ化

参加と
アクセシビリティ



研究の蓄積
・アーカイブが与える認識と解釈
・史料学→歴史学の拡張
・権利のイノベーションと公共性
・図書館情報学とメディア研究の接続

キュレーション／ファシリテーション

アーカイブ実践
・解釈　⇒　活用（地域やトピックに関するアクションへ）
・集積　⇒　構築（アーカイブそのものが育っていく）
「教育学」的アプローチ